

ロシア・ソビエト人名と
そのブルガリア語表記の仕方について
—男性人名を中心に—

清 水 守 男

目 次

- I はじめに
- II ブルガリア語とロシア語のアルファベットについて
- III ロシア・ソビエト人の姓名の構成について
- IV ロシア・ソビエト人名の格変化について
- V ロシア・ソビエト人名（男性）のブルガリア語表記について

I はじめに

キリール文字を使用する外国語に、ロシア語、白ロシア語、ウクライナ語（東スラブ語）、セルボ・クロアチア語、マケドニア語、ブルガリア語（南スラブ語）などが挙げられる。これらはすべてスラブ語族に属する言語であるが、この他スラブ語族には、ラテン文字を使用するポーランド語、チェコ語、スロバキア語（西スラブ語）などがある。この2種類の文字は歴史的に見て、宗教上の理由で分離したのである。つまり、9世紀から11世紀⁽¹⁾にかけてキリスト教会は、ローマ公教（カトリック）とギリシア正教（オーソドックス）の2つに分裂した。この影響でスラブ民族の世界も2つに分割され、ローマ公教を受け入れたポーランド人、チェコ人、スロバキア人、クロアチア人などは、ラテン文字を使うようになり、ギリシア正教を受け入れたロシア人、ウクライナ人、セルビア人及びブルガリア人などはキリール文字を用いることとなったのである。それ以前にさかのぼるならば、最古のスラブ文字（キリール文字）を記したのは教会スラブ語（古代

ブルガリア語)の文献である。

本論では、ロシア語とブルガリア語の文字について、ロシア・ソビエト人名の構成について、及び、図書館員にとって、目録作業の上で大変面倒なロシア・ソビエト人名の格変化⁽³⁾について明らかにすると共に、同じキリール文字を使用するロシア語とブルガリア語との言語間にどのような表記の仕方の違いが起こるかまとめてみたいと思う。

注

- (1) 厳密に言うと、セルビア語(キリール文字)とクロアチア語(ラテン文字)は、文字こそちがうが、共通の文法を使用する同一言語であるので、以後キリール文字を使用するセルビア語はセルボ・クロアチア語という名称で呼ぶこととする。
- (2) 矢島文夫『文字学のたのしみ』(東京, 1977年)120頁。
- (3) Под редакцией Д. Э. Розенталя (生格)や В. И. Лёнину к 50-летию со дня рождения (Лёнин は、与格), сост. Л. П. Калакúцкой (造格)のように、目録に記入すべき個人名はさまざまな文法上の形を持つので、それを識別し、目録作業の慣習に従って変換する必要がある。(標目及び副出において個人名はすべて主格になる)

また、ロシア・ソビエト人名の中には、格変化しないものもあるので紛らわしい。

II ブルガリア語とロシア語のアルファベットについて

現代ブルガリア語のアルファベットはキリール文字使用の諸言語の中では、東スラブ語と南スラブ語でグループこそ異なるが、大変現代ロシア語と類似している。アルファベット⁽¹⁾の順序にしても、ローマ字に翻字した形においても、少しの例外を除けばほぼ一致している。(表を参照のこと)

1. 現代ブルガリア語と現代ロシア語の文字使用法の相異点について

1) Ъ ѣはブルガリア語特有の母音であるため、語頭に來ることがあるがロシア語には分離記号としてのみ使われるので、ない。例: ъгъл (ロシア語の угол) また ъгълのようにブルガリア語にはъに力点が來ることがあるがロシア語にはない。

2) Щ щ は表のように発音が異なるから当然使い方も異なってくる。

例: штангист (ロシア語) → щангист (ブルガリア語), счастье → щастие, штáтный → щáтен となる。V, 5 も参照のこと)

3) ブルガリア語にはロシア語の Ё ё, (Ы) ы, Э э がないので別な文字でそれらを代用する。従って現在、ロシア語は33文字だが、ブルガリア語は30文字である。

2. 正字法の改訂について

1) ロシア語

現行の正字法は1918年に改訂されたものである。旧正字法⁽³⁾に含まれていた文字を次に挙げる。

І і, Ъ ъ, Ѡ ѡ, V v の4文字で現在は、次の様に書き換えられている。

І і → И и, Ъ ъ → Е е, Ѡ ѡ → Ф ф, V v → И и か В в。

2) ブルガリア語

ブルガリア語の Ъ ъ は1945年の正字法の改訂が行なわれるまで、広く用いられていた。現在その文字は Е е 又は я я に書き換えられている。

またそれまで単語の末尾に付けていた ъ や ь は除去された。例: предговоръ → предговор (ロシア語の предисловіе), пѣтъ → път (ロシア語の дорога)。

⁽⁵⁾ Ѣ はブルガリア語の鼻母音字である。現在それは Ъ ъ の母音字で代用している。例: сѣдъ → съд (ロシア語の суд)

スラブ文字翻字法

ロシア語	ブルガリア語	白ロシア語	ウクライナ語	セルボ ⁽³⁾ クロアチア語
А а a	А а a	А а a	А а a	А а a
Б б b	Б б b	Б б b	Б б b	Б б b
В в v	В в v	В в v	В в v	В в v
Г г g	Г г g	Г г h	Г г h	Г г g
—	—	Г г ⁽⁴⁾ g	Г г ⁽⁴⁾ g	—
Д д d	Д д d	Д д d	Д д d	Д д d

ロシア語	ブルガリア語	白ロシア語	ウクライナ語	セルビア語	ボスニア語
—	—	—	—	Ђ ђ	đ
Е е e	Е е e	Е е e	Е е e	Е е e	e
—	—	—	Є є iê	—	—
Ё ё ё	—	Ё ё ѿ	—	—	—
Ж ж zh	Ж ж zh	Ж ж zh	Ж ж zh	Ж ж zh	ž
З з z	З з z	З з z	З з z	З з z	z
И и i	И и i	—	И и y	И и i	i
І і ¹⁴⁾ i	—	І і i	І і i	—	—
—	—	—	Ї ї i	—	—
Й й ѣ	Й й ѣ	Й й ѣ	Й й ѣ	—	—
—	—	—	—	Ј ј j	j
К к k	К к k	К к k	К К k	К к k	k
Л л l	Л л l	Л л l	Л л l	Л л l	l
—	—	—	—	Љ љ lj	lj
М м m	М м m	М м m	М м m	М м m	m
Н н n	Н н n	Н н n	Н н n	Н н n	n
—	—	—	—	Њ њ nj	nj
О о o	О о o	О о o	О о o	О о o	o
П п p	П п p	П п p	П п p	П п p	p
Р р r	Р р r	Р р r	Р р r	Р р r	r
С с s	С с s	С с s	С с s	С с s	s
Т т t	Т т t	Т т t	Т т t	Т т t	t
—	—	—	—	Ѓ ѓ ċ	ć
У у u	У у u	У у u	У у u	У у u	u
—	—	Ў ў ŭ	—	—	—
Ф ф f	Ф ф f	Ф ф f	Ф ф f	Ф ф f	f
Х х kh	Х х kh	Х х kh	Х х kh	Х х kh	h
Ц ц ts	Ц ц ts	Ц ц ts	Ц ц ts	Ц ц ts	č
Ч ч ch	Ч ч ch	Ч ч ch	Ч ч ch	Ч ч ch	c
—	—	—	—	Џ џ dź	dź
Ш ш sh	Ш ш sh	Ш ш sh	Ш ш sh	Ш ш sh	š
Щ щ shch	Щ щ sht	—	Щ щ shch	—	—

Ъ ъ ⁽¹⁾	”	Ъ ъ ⁽²⁾	ǎ or ǎ	—	—	—	—
Ы ы	у	—	—	Ы ы	у	—	—
Ь ь	’	Ь ь	’	Ь ь	’	Ь ь	—
Ѣ ѣ ⁽⁴⁾	ê	Ѣ ѣ ⁽⁴⁾	ê	—	—	—	—
Э э	е	—	—	Э э	é	—	—
Ю ю	î	Ю ю	î	Ю ю	î	Ю ю	î
Я я	â	Я я	â	Я я	â	Я я	â
Ѡ ѡ ⁽⁴⁾	ǰ	—	—	—	—	—	—
Ѳ ѳ ⁽⁴⁾	ǰ	—	—	—	—	—	—
—	—	Ѧ ⁽⁴⁾	ǰ	—	—	—	—

資料. 日本図書館協会目録委員会『日本目録規則—1965年版—』(東京, 1977年)
213頁.

注. 米国議会図書館で現在実施している方式とこの表は一致している.

- (1) 末尾の時は翻字されない.
- (2) 語中にある時はǎのように翻字され, 語末の時は無視される.
- (3) この翻字においてはセルビア語と, 現代クロアチア語アルファベットとの対応を確認したものである.
- (4) これらは現在使用されていない文字である.

注

- (1) 表から明らかのように, スラブ文字(キリール文字)の中には今日のロシア語やブルガリア語には見られない文字も存在する. 白ロシア語の Ҁ, ï, ŷ, ウクライナ語の Ҁ, €, ï, ï, セルボ・クロアチア語の Ѡ, ѡ, Ѧ, ѧ, Ѩ がそれである.
- (2) その他, 単語においてはロシア語の同子音字, 2文字はブルガリア語では原則として1文字となり, (但し, 形容詞語尾 (例: Вре́менен, -ме́нна, -ме́нно) や名詞の接尾辞 -ост + 冠詞 -та (例: вла́стта) などの場合は例外である), 末尾の子音2文字間 (例: -тр, -др) にブルガリア語では Ѧ が入る. (и́ллюстра́ция → и́люстра́ция, оркэ́стр → оркэ́стър, кадр → ка́дър となる. V, II も参照のこと.
文法については多数の相異点があり, 一例を挙げれば, 冠詞 (ブルガリア語にはマケドニア語と同じく後置冠詞があるが同じ南スラブに属しながらもセルボ・クロアチア語にはロシア語と同様存在しない), 名詞の格変化 (ブルガリア語には, 生

格、与格、対格、造格、前置格がなく、前置詞がそれらの役目をする。しかしロシア語にはない呼格がブルガリア語にはある、但し、英語の人称代名詞、疑問代名詞の如くブルガリア語にもそこには格変化があり主格、与格、対格と変化する。)などで数え上げればきりが無い。(ロシア語の Орган Центрального Комитета Болгарской Коммунистической Партии はブルガリア語では Орган на Централния Комитет на Българската Комунистическа Партия となる。-ия, -та は冠詞であり、на は生格の働きをする)

人名の格変化については、Ⅳを参照することとし、ここでは簡単に目録作業における、ロシア語とブルガリア語間の著者表示についての相違点を述べる。ロシア語図書の見出し紙によく“под редакцией”という表示を見かける。仮に Словарь под редакцией профессора А. とすれば под + редакцией (造格) + профессора А. (生格) ということになり人名 А. は生格形となるが、ブルガリア語では речник под редакцията на професор А. となり、под + редакцията (冠詞付きの主格) + на + професор А. (主格) で人名 А. は常に主格形のまま語尾変化しない。その他、Предисловие А. (生格) はブルガリア語では、Предговор от А. (主格)、Под руководством А. (生格) は、Под ръководство на А. (主格) に、Перевод А. (生格) は、Превод от А. (主格) になる。

ブルガリア語の場合通常人名をそのまま標目に出したり、副出することができるがロシア語の場合、格変化した人名があれば、主格形にしなればならず注意を要する。

- (3) ロシア人名を例にとれば、旧正字法では次のように書かれる。 Пушкинь,
Алекса́ндръ Серге́евичъ (Пушкин, Алекса́ндр Серге́евич), Доста́евский,
Фёдоръ Миха́йловичъ (Доста́евский, Фёдор Миха́йлович). また語末が硬子音で終わる場合、旧正字法では ъ がその後用いられていた。(ъ は旧正字法の硬音符)
- (4) Р.С.Гиляревский, Б.А.Старостин, Иностранные имена и названия в русском тексте. Справочник (Москва, 1969), стр. 69.
- (5) А.Г.Широкова, В.П.Гудков, ред., Славянские языки; очерки грамматики западнославянских и южнославянских языков (Москва, 1977), стр. 226.

Ⅲ ロシア・ソビエト人の姓名の構成について

Ива́н Ива́нович Ива́нов を例にとれば、最初に自分の名、次に父称(父の名)、

最後に姓を記す慣習があり、「イワノフ家のイワンの子，イワン」という意味である。名，父称，姓はそれぞれ1語からなるのが普通で，原則として合計3語⁽¹⁾からなる。

1. ロシア・ソビエト人名の姓及び父称の語尾について（以下()内の数字はそれが用いられている例として，Vのロシア・ソビエト人名の見出しナンバーを意味する）

1) 姓の語尾

姓の語尾には，名詞の形，一般形容詞の形，物主形容詞の形の3種類がある。

A. 男性に用いられる姓の語尾

- a) -вич⁽²⁾ (50. 名詞の形)
- b) -ев (2, 8, 28, 36, 44. 物主形容詞の形)
- c) -ёв (46. 物主形容詞の形)
- d) -ин (3, 7, 11, 12, 18, 23, 24, 25, 29, 37, 40. 物主形容詞の形)
- e) -ий (-кий: 16, -ский: 5, 19, 27, 30, 31, 32, 47. 一般形容詞の形)
- f) -ов (1, 10, 13, 17, 20, 25, 26, 33, 38, 39, 48, 49. 物主形容詞の形)
- g) -ой (41, 42, 43. 一般形容詞の形で語尾にアクセントが来る)
- h) その他 (Ⅲ, 1の3) を参照のこと)

B. 女性に用いられる姓の語尾⁽³⁾

-ая (一般形容詞の形), -ева, -ина, -ова, -тина (物主形容詞の形) などがある。

2) 父称の語尾

A. 男性に用いられる父称の語尾⁽⁴⁾

- a) -евич (1, 2, 5, 7, 11, 13, 15, 17, 21, 23, 24, 26, 31, 32, 35, 36, 37, 38, 42, 43, 44, 46, 50)
- b) -ич (8, 25, 45, 47)
- c) -ович (3, 6, 9, 10, 12, 14, 18, 19, 20, 22, 27, 28, 29, 30, 33, 34, 39, 40, 41, 48, 49)

B) 女性に用いられる父称の語尾

-евна, -инитина, -овна などがある。

以上の如く若干語尾が異なるがいずれにおいても男性の父称は -ич で終り、女性の父称は -на で終わっている。

3) 語尾から見たソビエト内諸民族の姓の特徴について¹⁵⁾

A. -ук, -юк: ウクライナ, 白ロシア系. (22 の Корнейч¹⁵⁾ук)

B. -ко(-енко): ウクライナ系.

C. -ак, -ик, -ек: チェコ系.

D. -гейм, -зон, -сон, -штам, -штейн, -ман, -бург, -берг: ユダヤ系またはドイツ系.

E. -ян, -янц: アルメニア系. (45 の Хачатур¹⁵⁾ян)

F. -адзе, -идзе, -ани, -ели, -ети, -швили: グルジア系. (40 の Джугаш¹⁵⁾вили)

G. -ай, -ей: タタール, カザフ系.

H. -беков: キルギス, タジク系.

I. -улин: カザフ, キルギス系.

J. -аев, -иев: カザフ, キルギス, カルムイク系.

K. -заде: タジク系.

L. -ханов: キルギス, アゼルバイジャン系.

2. ロシア・ソビエト人の名について¹⁶⁾

姓と比較して、名は数が少ない。Vより男子名をアルファベット順に列挙する。

Алекса¹⁷⁾ндр (6, 7, 17, 22, 31, 37), Алекс¹⁷⁾ей (23, 41, 42), Анто¹⁷⁾н (48), Арам (45), Бори¹⁷⁾с (34), Виссарио¹⁷⁾н (5), Влади¹⁷⁾мир (25, 27), Всево¹⁷⁾лод (12), Гаври¹⁷⁾ла (18), Гео¹⁷⁾ргий (20), Демья¹⁷⁾н (4), Дми¹⁷⁾трий (28, 50), Евге¹⁷⁾ний (9), Ива¹⁷⁾н (21, 29, 33, 44), Ио¹⁷⁾сиф (40), Кири¹⁷⁾лл (39), Климе¹⁷⁾нт (10), Конста¹⁷⁾нтин (39), Лев (43), Леони¹⁷⁾д (2, 8), Макси¹⁷⁾м (16), Миха¹⁷⁾йл (3, 14, 26, 49), Мод¹⁷⁾ест (30), Ники¹⁷⁾та (46), Нико¹⁷⁾ла¹⁷⁾й (15, 32, 38), Пе¹⁷⁾тр (24, 35, 47), Серге¹⁷⁾й (1, 36), Фе¹⁷⁾дор (13, 19), Юри¹⁷⁾й (11). 語尾は、硬子音,

-а, -ай, -ей, -ий で終わっている。

使用される頻度の多い名としては、Алекса́ндр, Ива́н, Михаи́л, Алексе́й, Никола́й, Пе́тр, Влади́мир, Дми́трий, Леони́д, Серге́й, Фе́дор などが挙げられる。

注

(1) この形は公式の呼び方の場合で、普通は名と父称だけで呼び、親しきが増すにつれ姓だけ、名だけで呼んだり愛称で呼んだりする。例：Ива́н Ива́нович, (товарищ) Ива́нов, Ва́ня

Ива́н IV Васи́льевич Гро́зный (21) と Пе́тр Алексе́евич(35)の場合、理由はわからないが姓がない。また極めて稀であるが夫婦双方の姓を連結した2語姓(複合性)がある。(38の Рѣмский-Корсаков)

(2) 一見父称と混同しやすい姓であるが、父称の前には名がついているし、姓の前には父称がついているので混同することはまずない。

(3) 男性の姓の語尾に-aをつけた形が見られる。(-ов → -ова, -ев → -ева, -ин → -ина など) また -вич に関しては、男女同形である。

(4) よく用いられる父称としては、Никола́евич ← Никола́й (2, 23, 31, 42, 43), Серге́евич ← Серге́й (17, 30, 37, 44, 46), Алексе́евич ← Алексе́й (11, 24, 32, 35), Ильи́ч ← Ильи́я (8, 25, 45, 47) などがあり、当然父称(父の名より)と名が語尾を除けば同じ場合もありうる。(6, 27, 36, 50)

(5) 鳴海完造編『ロシア・ソビエト姓名辞典』(東京, 1979年) 310, 311頁。

(6) 名からはさまざまな指小形が派生し、愛称となったり、卑称となったりする。例として、主な愛称形を挙げる

Алекса́ндр → Са́ша, Ива́н → Ва́ня, Михаи́л → Ми́ша, Алексе́й → Але́ша, Никола́й → Ко́ля, Пе́тр → Пе́тя, Влади́мир → Во́дя と Во́ва, Дми́трий → Ди́ма など

語尾は、-а, -ша, -я で終わっている。また Са́ша については、Алекса́ндра (女性) の愛称形でもある。

(7) Арам という名は、辞典では見出せなかった。多分アルメニア人特有の名であろう。

Ⅳ ロシア・ソビエト人名の格変化について

ロシア語は、名詞、形容詞、数詞などと同様に人名も格変化して意味をかえる。

日本語は1つの単語の意味は、“テ、ニ、ヲ、ハ”によってかわるが、この“テ、ニ、ヲ、ハ”にあたるのが格変化である。

ブルガリア語⁽¹⁾においては、前置詞が、格変化の役目をし、人名そのものは通常、呼格（語尾が普通-o又は-eとなる）を除いて変化しない。

1. 姓の格変化について

姓には名詞、一般形容詞、物主形容詞の3種類の形がある。

1) 名詞の形をした姓の格変化

名詞の形をした姓は男女共同じ語尾をしているが、男性のみ格変化し、女性は変化しない。但し、男性の場合でも、変化しないものもある。

	男 性	女 性	複 数 ⁽²⁾
主 格	Гоголь	Гоголь	Гоголи
生 格	Гоголя	Гоголь	Гоголей
与 格	Гоголю	Гоголь	Гоголям
対 格	Гоголя	Гоголь	Гоголей
造 格	Гоголем	Гоголь	Гоголями
前 置 格	Гоголе	Гоголь	Гоголях

	男 性	女 性	複 数
主 格	Шостако́вич	Шостако́вич	Шостако́вичи
生 格	Шостако́вича	Шостако́вич	Шостако́вичей
与 格	Шостако́вичу	Шостако́вич	Шостако́вичам
対 格	Шостако́вича	Шостако́вич	Шостако́вичей
造 格	Шостако́вичем	Шостако́вич	Шостако́вичами
前 置 格	Шостако́виче	Шостако́вич	Шостако́вичах

2) 一般形容詞の形をした姓の格変化

一般形容詞の形をした姓は男性が *-ой, -ий* の語尾を持ち、女性は *-ая* で終る。格変化は形容詞と同じである。

	男 性	女 性	男 性	女 性
主 格	Толстой	Толстая	Достоевский	Достоевская
生 格	Толстого	Толстой	Достоевского	Достоевской
与 格	Толстому	Толстой	Достоевскому	Достоевской
对 格	Толтого	Толстую	Достоевского	Достоевскую
造 格	Толстым	Толстой	Достоевским	Достоевской
前置格	Толтом	Толстой	Достоевском	Достоевской

	複 数	複 数
主 格	Толстые	Достоевские
生 格	Толстых	Достоевских
与 格	Толстым	Достоевским
对 格	Толстых	Достоевских
造 格	Толстыми	Достоевскими
前置格	Толстых	Достоевских

3) 物主形容詞の形をした姓の格変化

物主形容詞の形をした姓は、男性が *-ин, -ын, -ов, -ев* の語尾で、女性は、*-ина, -ына, -ова, -ева* の語尾で終る。但し格変化の際、物主形容詞は普通、前置格の男性形は *-ом* となるのに対し、人名の場合、名詞と同じように *-е* で終る。女性の場合は、物主形容詞と同じ変化である。

	男 性	女 性	男 性	女 性
主 格	Пушкин	Пушкина	Чехов	Чехова
生 格	Пушкина	Пушкиной	Чехова	Чеховой
与 格	Пушкину	Пушкиной	Чехову	Чеховой
对 格	Пушкина	Пушкину	Чехова	Чехову
造 格	Пушкиным	Пушкиной	Чеховым	Чеховой
前置格	Пушкине	Пушкиной	Чехове	Чеховой

	複	数	複	数
主 格		Пушкины		Чеховы
生 格		Пушкиных		Чеховых
与 格		Пушкиным		Чеховым
对 格		Пушкиных		Чеховых
造 格		Пушкинами		Чеховыми
前 置 格		Пушкиных		Чеховых

4) 複合姓の格変化

複合姓の格変化は、姓が両方共、変化し、それぞれの変化に従う。

	形容詞の形	物主形容詞の形
主 格	Римский	— Кóрсаков
生 格	Римского	— Кóрсакова
与 格	Римскому	— Кóрсакову
对 格	Римского	— Кóрсакова
造 格	Римским	— Кóрсаковым
前 置 格	Римском	— Кóрсакове

5) 格変化しない姓

A. -ко (-енко) に終るウクライナ人の姓。

この形の姓は男女同形で、両方共、格変化しないのが普通であるが、男性の場合変化させることもできる。

B. -овó, -áго, -ых, -их に終る姓。

男女共、常に不変化である。

C. -вич で終る女性の姓。

男女同形の語尾であるが、男性形は変化するが、女性形は変化しない。

D. -eu に終る女性の姓。

E. 子音に終る名詞の形をした女性の姓。

以上の事から明らかなように名詞の形をした姓は男女同形で、格変化の際男性の姓のみが変化し、女性は変化しない。また、男性の姓のうち、-ко,

-ých, -ých, -áго, -овóに終るものは変化しないが、-коに終る男性の姓は変化させてもよい。

2. 名の格変化について

名は名詞の形をしているので、名詞と通常同じ語尾変化をする。格変化は男女別、語尾の硬変化、軟変化に応じてかわる。格変化には10通りある。

第1式男性変化

	硬変化	軟変化	軟変化	軟変化
主格	Ива́н	Ла́зарь	Алексе́й	Васи́лий
生格	Ива́на	Ла́заря	Алексе́я	Васи́лия
与格	Ива́ну	Ла́зарю	Алексе́ю	Васи́лю
対格	Ива́на	Ла́заря	Алексе́я	Васи́лия
造格	Ива́ном	Ла́зарем	Алексе́ем	Васи́лием
前置格	Иване	Ла́заре	Алексе́е	Васи́лии

第2式女性変化

	硬変化	軟変化	軟変化	軟変化
主格	А́нна	Же́ня ⁽³⁾	Ма́рия	Илья́ ⁽⁴⁾
生格	А́нны	Же́ни	Ма́рии	Ильи́
与格	А́нне	Же́не	Ма́рии	Илье́
対格	А́нну	Же́ню	Ма́рию	Илью́
造格	А́нной	Же́ней	Ма́рией	Илье́й
前置格	А́нне	Же́не	Ма́рии	Илье́

第2式女性変化

	混合変化
主格	Ми́ша ⁽⁵⁾
生格	Ми́ши
与格	Ми́ше
対格	Ми́шу
造格	Ми́шей
前置格	Ми́ше

第3式女性変化

	軟変化
主格	Любо́вь ⁽⁶⁾
生格	Любо́ви
与格	Любо́ви
対格	Любо́вь
造格	Любо́вью
前置格	Любо́ви

3. 父称の格変化について

父称の格変化は2通りだけで、名詞と同じ変化をする。

	男 性	女 性
主 格	Ива́нович	Ива́новна
生 格	Ива́новича	Ива́новны
与 格	Ива́новичу	Ива́новне
対 格	Ива́новича	Ива́новну
造 格	Ива́новичем	Ива́новной
前 置 格	Ива́новиче	Ива́новне

注

- (1) IIの注(2)を参照のこと。
- (2) この形は、家族名とも呼ばれ、それは、“家族の人々”を指す場合に使われ、男性の姓を複数形にして用いる。従って女性ばかりの家族を指して言う場合も、男性の姓からとった複数形が使われる。
- (3) Евге́ний (男性)と、Евге́ния (女性)の愛称。
- (4) 男性の名前。
- (5) Михаи́л (男性)の愛称。
- (6) Любо́вьは女性の名で、普通名詞と同形であるが格変化において人名と名詞では異なる。(普通名詞：любо́вь, -бви, 単造 -бóвью)

V ロシア・ソビエト人名 (男性) のブルガリア語表記について

主要なるロシア・ソビエト人名 (男性) 50名を無作為に挙げ、ロシア文字がブルガリア文字でどのように表記されるか明らかにしてみたい。

内容構成については、「⁽¹⁾①見出し人名 (カナ表記) ⁽²⁾②ロシア語の原綴→ブルガリア語表記 (姓、名、父称の順で括弧内は本姓又は本名を示す) ⁽³⁾③国名 (ロシアまたはソ連) ⁽⁴⁾及び生没年。」の順である。

人名はロシア語のアルファベット順とし、ロシア語とブルガリア語にお

いて、表記の異なる箇所及び注意を要する箇所にはアンダーラインを記した。

- 1) アクサーコフ Акса́ков, Серге́й Тимофе́евич → Акса́ков, Сергей Тимофе́евич (ロシア, 1791—1859)
- 2) アンドレーエフ Андре́ев, Леони́д Никола́евич → Андре́ев, Леонид Николаевич (ロシア, 1871—1919)
- 3) バクーニン Баку́нин, Михаи́л Алекса́ндрович → Баку́нин, Михаил Алекса́ндрович (ロシア, 1814—76)
- 4) ベードヌイ Бе́дный, Демья́н (Придво́ров, Ефи́м Алексе́евич) → Бе́дни, Демья́н (Придво́ров, Ефим Алексе́евич) (ソ連, 1883—1945)
- 5) ベリンスキイ Бели́нский, Виссарио́н Григóriевич → Бели́нски, Висарион Григори́евич (ロシア, 1811—48)
- 6) ブローク Блок, Алекса́ндр Алекса́ндрович → Блок, Алекса́ндр Алекса́ндрович (ロシア, 1880—1921)
- 7) ボロジン Боро́дин, Алекса́ндр Порфи́рьевич → Боро́дин, Алекса́ндр Порфи́риевич (ロシア, 1833—87)
- 8) ブレジネフ Бре́жнев, Леони́д Ильи́ч → Бре́жнев, Леонид Или́ч (ソ連, 1906—)
- 9) ヴァルガ Ва́рга, Евге́ний Само́йлович → Ва́рга, Евгений Само́йлович (ソ連, 1879—1964)
- 10) ヴォロシーロフ Вороши́лов, Климе́нт Ефре́мович → Вороши́лов, Климент Ефре́мович (ソ連, 1881—1969)
- 11) ガガーリン Гага́рин, Ю́рий Алексе́евич → Гага́рин, Ю́рий Алексе́евич (ソ連, 1934—68)
- 12) ガルシン Га́ршин, Всево́лод Михаи́лович → Га́ршин, Всеволод Михаи́лович (ロシア, 1855—88)
- 13) グラトコフ Гладко́в, Фе́дор Васи́льевич → Гладко́в, Фьодо́р

Василиевич (ソ連, 1883—1958)

- 14) グリンカ　　Глинка, Михаи́л Ива́нович → Гли́нка, Михаил Иванович
（ロシア, 1304—57）
- 15) ゴーゴリ　　Го́голь, Никола́й Васи́льевич → Го́гол, Николай Василиевич
（ロシア, 1809—52）
- 16) ゴーリキィ　　Го́рький, Макси́м (Пешко́в, Алексе́й Макси́мович) → Го́рки,
Максим (Пешко́в, Алексе́й Макси́мович)（ロシア, 1868—1936）
- 17) グリボエードフ　　Грибо́едов, Алекса́ндр Серге́евич → Грибо́едов,
Алекса́ндр Серге́евич（ロシア, 1795—1829）
- 18) デルジャーヴィン　　Держа́вин, Гаври́ла Рома́нович → Держа́вин,
Гаврила Романович（ロシア, 1743—1816）
- 19) ドストエフスキィ　　Досто́евский, Фёдор Миха́йлович → Досто́евски,
Фьодор Михайлович（ロシア, 1821—81）
- 20) ジューコフ　　Жу́ков, Гео́ргий Константи́нович → Жу́ков, Георги
Константинович（ソ連, 1896—1974）
- 21) イヴァン 4 世　　Ива́н IV Васи́льевич Гро́зный → Ива́н IV Василиевич
Грозни（ロシア, 1530—84）
- 22) コルネイチューク　　Корнейчу́к, Алекса́ндр Евдоки́мович → Корнейчу́к,
Алекса́ндр Евдоки́мович（ソ連, 1905—72）
- 23) コスイギン　　Косы́гин, Алексе́й Никола́евич → Коси́гин, Алексе́й
Николаевич（ソ連, 1904—）
- 24) クロポトキン　　Кропо́ткин, Пе́тр Алексе́евич → Кропо́ткин, Пьотър
Алексе́евич（ロシア, 1842—1921）
- 25) レーニン　　Ле́нин (Улья́нов), Влади́мир Ильи́ч → Ле́нин (Уля́нов),
Владимир Илич（ロシア, 1870—1924）
- 26) レールモントフ　　Ле́рмонтов, Михаи́л Юрье́вич → Ле́рмонтов, Михаил
Юрие́вич（ロシア, 1814—41）
- 27) マヤコーフスキィ　　Маяко́вский, Влади́мир Влади́мирович → Маяко́вски,

Владимир Владимирович (ソ連, 1893—1930)

- 28) メンデレーエフ Менделеев, Дмíтрий Ива́нович → Менделеев,
Дмитрий Иванович (ロシア, 1834—1907)
- 29) ミチューリン Мичурин, Ива́н Влади́мирович → Мичурин, Иван
Владимирович (ソ連, 1855—1935)
- 30) ムソルグスキィ Мусоргский, Модéст Петро́вич → Мусоргский, Модест
Петрович (ロシア, 1839—81)
- 31) オストロフスキィ Остро́вский, Алекса́ндр Никола́евич → Остро́вский,
Алекса́ндр Николаевич (ロシア, 1823—86)
- 32) オストロフスキィ Остро́вский, Никола́й Алексе́евич → Остро́вский,
Николай Алексе́евич (ソ連, 1904—36)
- 33) パブロフ Па́влов, Ива́н Петро́вич → Па́влов, Иван Петрович
(ソ連, 1849—1936)
- 34) パステルナーク Пастерна́к, Бори́с Леони́дович → Пастерна́к, Борис
Леонидович(ソ連, 1890—1960)
- 35) ピュートル1世 Пётр Алексе́евич, Пётр Вели́кий → Пётър I Алексе́евич,
Пётър Велики (ロシア, 1672—1725)
- 36) プロコフィエフ Прокóфьев, Серге́й Серге́евич → Прокóфиев, Сергей
Серге́евич (ソ連, 1891—1953)
- 37) プーシキン Пу́шкин, Алекса́ндр Серге́евич → Пу́шкин, Алекса́ндр
Серге́евич(ロシア, 1799—1837)
- 38) リムスキィ・コルサコフ Рíмский-Кóрсаков, Никола́й Андре́евич →
Рíмский-Кóрсаков, Николай Андре́евич (ロシア, 1844—1908)
- 39) シーモノフ Сíмонов, Константи́н (Кири́лл) Миха́йлович → Сíмонов,
Константин (Кирил) Михайлович (ソ連, 1915—)
- 40) スターリン Ста́лин (Джугашvíли), Ио́сиф Виссарио́нович → Ста́лин
(Джугашvíли), Ио́сиф Висарио́нович (ソ連, 1879—1953)

- 41) トルストイ Толстой, Алексе́й Никола́евич → Толстой, Алексей Константинович (ロシア, 1817—75)
- 42) トルストイ Толстой, Алексе́й Никола́евич → Толстой, Алексей Николаевич (ソ連, 1883—1945)
- 43) トルストイ Толстой, Лев Никола́евич → Толстой, Лев Николаевич (ロシア, 1828—1910)
- 44) ツルゲーネフ Тургéнев, Ива́н Серге́евич → Тургéнев, Иван Сергеевич (ロシア, 1818—83)
- 45) ハチャトリャン Хачатуря́н, Арам Ильи́ч → Хачатуря́н, Арам Илич (ソ連, 1903—78)
- 46) フルシチョフ Хрущёв, Никита Серге́евич → Хрущёв, Никита Сергеевич (ソ連, 1894—1971)
- 47) チャイコーフスキィ Чайко́вский, Пётр Ильи́ч → Чайко́вски, Пьотър Илич (ロシア, 1840—1893)
- 48) チェーホフ Чéхов, Анто́н Па́влович → Чéхов, Антон Павлович (ロシア, 1860—1904)
- 49) ショーロホフ Шо́лохов, Михаи́л Алекса́ндрович → Шо́лохов, Михаил Александрович (ソ連, 1905—)
- 50) ショスタコーヴィチ Шостако́вич, Дми́трий Дми́триевич → Шостако́вич, Дмитрий Дмитриевич (ソ連, 1908—75)

以上の例から明らかなように、ロシア・ソビエト人名におけるロシア語の文字及び文字の組み合わせは、ブルガリア語表記の際、次のように転写される。
1. А а, Б б, В в, Г г, Д д, Е е, Ж ж, З з, К к, Л л, М м, Н н, О о, П п, Р р, С с, Т т, У у, Ф ф, Х х, Ц ц, Ч ч, Ш ш, Ю ю, Я я。これら25のロシア文字はブルガリア語表記において、そのまま書かれる。

ただし、はブルガリア語にはない文字で、さまざまな表記の仕方が見られる。ю → ю (34), е → е (35) や ю → ю (36) で最も多い表記方法は ю である。

3. Юю (語頭における) という文字の組み合わせにおいては⁽⁵⁾ Юю というブルガリア語表記が見られる。(40)
 4. Йй は -ий や -ый の文字の組み合わせ (形容詞語尾) において, ブルガリア語表記では й は省略され, 共に⁽⁶⁾ -и となる. (-ий → -и: 19, 27, 30, 31, 32, 38, 47. -ый → -и: 4, 21)
 5. Щ щ はロシア語とブルガリア語では文字は同じでも発音が異なり (ロシア語は [shch] でブルガリア語は⁽⁷⁾ [sht]) ブルガリア語表記の際, щ ではなく шч のようになる。(46)
 6. (Ъ) ъ は人名の最後が子音 2 文字 (-др と -тр)⁽⁸⁾ で終る場合, ブルガリア語では, ъ をその中間に入れて表記される. (-др → -дър: 6, 7, 17, 22, 31, 37. -тр → -тър: 35, 47)
 7. (Ы) ы はブルガリア語にはない文字で, 発音上最も近い (И) и でもって転写される。(23. この章の4, 10の所も参照のこと)
 8. (Ь) ь については, ロシア語の文字の組み合わせ -ье- がブルガリア語では -ие- と表記される。(5, 7, 13, 15, 21, 26, 36)
語末の⁽⁹⁾ ь (15) 及び 2 子音文字間の⁽¹⁰⁾ ь (16) は, ブルガリア語表記の際, 省略される。
- 文字の組み合わせ -ья- や -ьи- においても ь は省略され, ブルガリア語表記の際, -я-(25), -и-(8, 25, 45, 47) になる。
9. Ээ はブルガリア語にはない文字で, 最もその発音に近い Е е が表記に用いられる。(52)
 10. 形容詞語尾を持つロシア・ソビエト人名のブルガリア語表記について⁽¹²⁾
ロシア語における形容詞語尾 (-ый, -ий と -ой) を持つ人名は, 姓 (4, 5, 16, 19, 27, 30, 31, 32, 38, 41, 42, 43, 47) に用いられており, その他 Великий (35) や Грозный (21) もそうである。

ブルガリア語の男性名詞単数形語尾は, 普通, 子音で終るが次の場合も男性名詞に含まれる. -й (ゼロ語尾), -а, -я, -о (男性を意味する名詞の

場合のみ)そして и (固有名詞, 名詞化された形容詞と月の名前のみ) である。その例として, Човек (человек), чичо (дядя), съдия (судья), Георги (Георгий), гóрски (лесник), юни (июнь)などが挙げられ, 一方形容詞については, 男性単数形は冠詞なしの形は \emptyset か -и に, 呼格は -и に, 冠詞付きの形は長語尾形が -ият に, そして短語尾形が -ия に終る。つまり形容詞語尾 (-ий, -ый)をもつ男性人名は, ブルガリア語表記の際末尾の й をとった形の -и とならなければいけない。

しかしながらロシア語の形容詞語尾 ⁽¹²⁾ -ой は, ブルガリア語には存在しなくゼロ語尾となるので, そのままの形で表記されることになる。(41, 42, 43)

以上の事は, 原則として姓において言える事で名の場合, 語尾が -ий で終わっていても, 名詞と同じ格変化をするので形容詞語尾とは言わない。故に原則としてそのまま名はブルガリア語に転写する傾向にある。⁽¹³⁾ (9, 11, 28, 50)

11. 人名において, 同子音文字が2字続く場合, ブルガリア語表記では1字になる。⁽¹⁴⁾ 例として лл → л (39) と сс → с (5, 40) が挙げられる。但しこれは子音の場合のみで, 同じ母音字が2字続く時は, 必ず2字共ブルガリア語に転写される。(-ее- : 1, 2, 11, 17, 24, 28, 32, 35, 36, 37, 38, 44, 46. これらは姓及び, 父称に見られる)

12. 姓のアクセントの位置について

姓における力点の位置は, ⁽¹⁵⁾ ブルガリア語とロシア語では一致している。

注

(1) 姓名のカナ表記について

キリール文字を正確にカナ文字に書き移すことは不可能で, ラテン文字の場合と同様, キリール文字もカナとは根本的に性質を異にしている。(例: ва → ワー, ヴァー, バーや вич → ヴィッチ, ヴィチ, ビッチ) それでコンサイス和露辞典のカナ表記をそのまま採用した。

井桁貞敏編『コンサイス和露辞典』(東京, 1972年) 841—848頁。

(2) 原綴及び力点に関しては, 主にコンサイス和露辞典のを採り上げ, 不明な点は, コンサイス外国人名辞典や Б. С. Э. を参考にした。

井桁編, 前掲書, 841—848頁。

三省堂編修所『コンサイス人名辞典—外国編—』(東京, 1978年)

A.M.Прохоров и др., ред., Большая Советская Энциклопедия, т. 1-29. 3. изд. (Москва, 1970 — 1978) 未完。

- (3) ブルガリア語表記及び力点(姓のみ)については, Кратка Българска Енциклопедия から採用した。(略して К.Б.Е.)

Владимир Георгиев и др., ред., Кратка Българска Енциклопедия в 5 тома (София, 1963 — 1969)

- (4) コンサイス和露辞典のをそのまま採用した。

井桁編, 前掲書, 841—848頁。

- (5) ドイツ人 Gutenberg, Johannes Gensfleisch は, Гүтенберг, Йо́ганн (ロシア語) → Гүтенберг, Йо́хан (ブルガリア語) となり Brahms, Johannes は Брамс, Йо́ганнес → Брамс, Йо́ханес となる。

- (6) V, 7, 10を参照のこと。

- (7) 同じことが逆の場合も言える。つまりブルガリア語のщはロシア語表記する際, шт となる。(例: ドイツ人 Einstein, Albert は Айнща́йн, Алберт (ブルガリア語) → Эйнштáйн, А́льберт (ロシア語) となる)

- (8) 語中においては ъはつかない。(例: 3, 6, 49 の Алекса́ндрович, 30, 33のПетрович)

- (9) フランス人 Baudelaire, Charles Pierre は Бодле́р, Шарл (ロシア語) → Бодле́р, Шарл (ブルガリア語) となり, Valery, Paul Ambroise は Валери́, Поль → Валери, Пол となる。

- (10) イギリス人 Wilde, Oskar は Уайлд, Оскар (ロシア語) → Уайлд, Оскар (ブルガリア語) となり, フランス人 Balzac, Honoré de は Балза́к, Оноре де → Балза́к, Оноре дьо となる。

- (11) フランス人 Manet, Edouard は Мане, Эдуар (ロシア語) → Мане, Эдуар (ブルガリア語) となり, ドイツ人 Erhard, Ludwig は Эрхард, Людвиг → Эрхард, Людвиг となる。

- (12) ロシア語の -ой で終る形容詞を例にとればブルガリア語では次のようになる。

простой → прост, речной → речен, ночной → ношен, больной → болен, живой → жив
となり -ой はブルガリア語では消え, ゼロ語尾となる。

- (13) 但し, この章の10の例のように慣例的に使用しているブルガリア人の名とロシア人の名が語尾を除いて同じ場合, ブルガリア語式表記の仕方 (-и) が優先される。

(例: Георгий (ロシア語) → Георги (ブルガリア語) (20), その他 Анатолий → Анатоли, Прокопий → Прокопи, など)

Р.С. Гиляревский, Б.А. Старостин, Иностранные имена и названия в русском тексте.
Справочник (Москва, 1969), стр. 70, 71.

- (14) II の注(2)を参照のこと.
- (15) К.Б.Е. には姓のみにアクセントがあるのだが, Пáвлóв (33) だけは力点が2箇所あり唯一の例外である. ブルガリア人の姓では Пáвлóв と発音されるので2箇所アクセントが可能なのであろう.